

今吹衆級位審査要項

受審者	受審級	学年	実施日	
審査指針	審査1	基本動作及び形(礼、姿勢 気合 形、打ち方の正確性、・連動と残心 正しい運足、)		
	審査2	基本受打(礼、姿勢 気合 形、打ち方、受けの正確性、・連動と残心 正しい運足)		
	審査3	交互受打+交互よけ(礼、姿勢、気合と、協調性、俊敏性、完成度)		
	審査4	対戦(技の完成度、受けの完成度、運足の完成度試合運び、間合いのとらえ方の完成度)		
	審査5	指導員による受審者の日常の練習態度を評価		
審査項目	項目No.	審査視点	満点	評価
審査1	1	審査会場入場までの姿勢 審査に対する気構え	5	
	2	礼法……目線・視線、挨拶(気迫ある気合、元気の良さ)	5	
	3	礼法……姿勢・立位姿勢・剣の位置	5	
	4	構え刀の姿勢	5	
	5	基本動作中の目線・気合	5	
	6	技・形・打ち方の正確性	5	
	7	技の連動、残心の正しさ、美しさ	5	
審査2	1	礼法……目線・視線、黙礼礼の形・気迫ある気合、元気の良さ、立位姿勢の美しさ・剣の位置	5	
	2	基本受打中の気合	5	
	3	構えの姿勢形、立位姿勢の美しさ正確さ	5	
	4	形・打ち方、受け、囲いの正確性、技の連動の正確さ、正しい運足	5	
審査3	1	礼法……視線、気迫、相手に対する礼儀、立位姿勢・剣の位置	5	
	2	気迫ある気合、元気な掛け声	5	
	3	形・打ち方の正確性、剣はこびを中心に正確性を見る	5	
	4	技の連動の正確さ、打ち技につなげていく流れ、剣はこび	5	
	5	相手に対する思いやりの心、協調性、相手がよけ・受けやすい位置へ打ち込み	5	
	6	よけに対する俊敏度、正確度素早くよけるだけでなく、元の構え・姿勢に戻る早さ、正しさ	5	
審査4	1	礼法の完成度	5	
	2	間合い(フェイント、見切り、運足、体さばき)の完成度	5	
	3	技(攻撃だけで無く、よけ・受けも含む)の完成度	5	
	4	術(見せかける、居着かせる、それらを見破る)の完成度	5	
	5	自心審判の完成度	5	
審査5	1	常日頃の本受審者の修練態度また、スポーツチャンバラに対する理解と気構えなど、試合や、出稽古への積極的参加態度を指導総括が評価のこと	40	
合計			150	0
受審者将来の目標				
審査総評				

各視点毎の満点満点合計150点に対して、減点法による審査を行う

審査に対して、受審者に満点の模範試合、模範動作・受打・よけを受審前に見せること

審査は、受審級を与えるに値する者に対しては満点数で評価し、各視点評価点合計する減点法による審査を行う。減点数の全くない者は、飛び級も検討する(原則飛び級はなしが前提)こと。合格点は、(平均)120点以上とするが、合計(平均)得点が100点に満たず、80点を超える者は、審査した者が採点を見直した上、協議し、採点に問題ない場合は不合格として次回の再審査とする。採点に問題がある場合、即再審査を行い、尚、合計得点が100点を超えない者は、当該審査は不合格とし、次回の審査時期に併せて受審級について審査員で協議をすること。審査前に、指導員は受審者氏名と学年及び受審級審査5-1の得点を宣言すること。審査5-1については、通常受審者に関わっている指導者が、40点を満点とし審査前に 評価、点数を審査員に宣言する。

自心審判の完成度を見る故、対戦に審判をおかず、形式は通常の試合に準じて行う。

10級～8級審査については、剣術的技術面より、スポチャンに対する熱意態度、姿勢、 礼法に重点をおき、審査する

7級～5級審査については、対戦相手に対する誠意ある礼儀、礼法を重視し、初歩的な 剣術技術のマスターも考慮して審査する

4級～1級審査については、誠意ある礼儀、礼法の高いレベルは勿論、スポチャンに対する熱意、護身道の基本的概念に対する理解、剣技が相当のレベルにあることを鑑み審査する。